大榧（かや）が見守る与野鈴谷の大地

2020.10.17 調査
小川 浩

真土館

まぼろかた
今宮館と同時期の屋敷と思われるが詳細は不明

真土館跡推定地

今宮館

戦国後期、岩槻城主太田氏房（北条氏政三男）の家臣、立石壱右衛門の館と推定されている。
この場所は「礼の辻」と呼ばれ、交通上の要衝と見われる。

与野の大カヤ

国指定天然記念物

日本三大カヤ

高さ約21m、樹齢約1000年、此花
平安時代中頃に植えられたとされる。
室町時代中頃には、区標として
知られ、与野を目指す旅人へ
道しるべとしても知られていた。

カヤ

イチイ科
常緑針葉樹、此花雌雄別株
葉の先が鋭く、さわると痛い。
穂のアーモンドのような形をしている。油を搾り、食用や灯明とする。材は将棋盤や碁盤にされる。

鴻沼用水

鴻沼川沿いには、かつて、鴻沼という大きな沼がありました。現在の中浦和から与野本町付近まで、鴻沼川沿いに細長く続いていたようです。
1728年、井沢弥惣兵衛が見沼も新田開発した時に、鴻沼も開発（干拓）され、その新田に必要な水を供給するために、鴻沼用水が造られました。その水は、大宮区天沼付近で見沼代用水から分水され、新都心駅と下落合小の校庭の下を通り、与野中央公園へ行って東流と西縁に分かれています。

本圀古墳

ほんもく
一辺約20m、高さ約4.5mの四角い形をした方墳

堀や住居跡も見つかっています。

中島本圀林地

本圀林地のある台地と斜面林は林地として保存されています。
ヒノキ、アカメガシワ、シラカシ、コナラ、クヌギ、マテバシイ、ゴンズイ、エゴノキ、シデ、チャ、スズキ、

自然堤防

旧中島村

低地を流れる大きな川の川辺には上流から土砂が流れてきて、たまります。時に曲がって流れる部分の内側。そこは、周囲より1~2m高く、自然堤防と呼ばれます。

古入間川跡

江戸時代以前に入間川が流れていた所。川沿いは水田で潤え、多くの村がある。古墳も多く造られている。

古入間川

荒川は、今の元荒川の所を流れていました。

真鳥山城

鎌倉時代の武将、畠山重忠の家臣、真鳥日向守の居城
江戸時代によろいや刀が出土しているようです。

河童の森

約30年前に造られた人工の森。多くの生物が生息するビオトープになっている。

ミゾソバ、ボントクタデ、ヨシ、オモダカ、ジュズ、アメリカザリガニ、スジエビ

クコ、コシロハセンダングサ、アレチヌスビトハギ、チガヤシバ、セイタカアワダチソウ、ツユクサ、ヤブガラシ、アレチウリ、イヌタデ、イノコヅチ

ミズキ、ケヤキ、シラカシ、カマズミ、ゴンズイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、コナラ、クヌギ、ムクロジ

鴻沼（高沼）用水路西縁

鈴谷交差点

鈴谷 礼の辻

礼の辻の礼とは、領主の命令を書いた掲示のことです。

礼の辻遺跡

今宮館跡推定地

今宮館の堀の跡（推定）

与野の大カヤ

縄文～戦国時代の住居跡や古墳跡等があったようです。

この辺りは礼の辻という地名でした。

日向古墳

直径約15m、高さ約2mの円墳
樹木がタイのため冬～春に見学がおすすめ。

貝塚？

日向不動尊

与野中央公園

与野駅

南与野駅

区画整理工事中

オオイヌタデ、マルバルコウソウ、アレチヌスビトハギ

道路工事で、貝殻が見られます。約3000年前までこの辺りが海岸だったようです。

新都心駅と下落合小の校庭の下を通ります。

下落合小

新都心駅

ホームの下を流れています。

見沼代用水

鴻沼川

東縁

西縁

金谷坂

急坂

富見坂

古くらの道

古めかの道

新大宮バイパス

昔ながらの里山風景が見られます。

ツユクサ、メヒシバ

山久保

ノブドウ、カラスウリ、クサギ

野菜畑

カキ、チャ

小さな谷

田畑や雑木林があります。

スーパーマーケット

P

本圀古墳頂とは、標高約20m

どれも激坂！

中島は文

ためき山

台地の先端は通称「ためき山」と呼ばれています。
円周埴輪が出土

中島村から荻和村へ

荻和から美笹村へ